

1 学校として目指す授業

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通して、児童の学力の定着を図る。～ICT機器の活用と小学校教科担任制の趣旨を生かした、児童の意欲を引き出す授業～

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・学力調査に関する本校の平均正答率は、どの教科も全国や東京都の平均正答率よりも高い結果となった。評価の観点について、突出して全国平均より高いものはなかったが、問題別に見ていくと、思考力・判断力・表現力等を問う問題が高い正答率であった。 ・平均正答率が高い一方で、無回答率が全国平均より高い問題も見られたので、学力差があることが分かる。個に応じた授業を行うことが必要である。	・自己肯定感を問う質問や将来の夢に対して概ね肯定的な意見であることから、前向きに生活できていることが分かる。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」について、肯定的な回答が全国平均の20%以上高いのに対して、「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」については全国平均の5%高いにとどまっている。教科横断的な指導の充実が必要である。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析 (小学校4～6年生)

四教科(国語、算数、理科、社会)の授業の内容に対する理解の程度に関しては、肯定的な回答が都の平均を上回っている。また、「分かることやできることが楽しいから」の肯定的な回答が85%を超えている。教科担任制による専門性の高い教科指導が効果的であったと考えられる。しかし、学校以外で学習する時間については、都の平均と比べて短い傾向が見られた。今後、更に「わかった、できた」喜びを味わえるような学びを充実させていく。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

・教科に関するアンケート  
 ・ワークシート・ワークテスト等  
 →教科に関する興味関心は高く、楽しく授業を受けている。しかし、適用問題やワークテストの結果にはなかなか反映されず、知識の定着に結び付いていないことが分かる。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・長音、拗音、促音、撥音、助詞の使い分けが難しい児童がいる。
- ・基礎的基本的な知識技能の習得に個人差がある。
- ・思考力や判断力、表現力を必要とする場面に課題があり、時間を要する児童がいる。

- 【授業改善推進プランの活用法】**
- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。  
 ※学校経営方針との関連を確認すること。
  - ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
  - ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
  - ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
  - ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
  - ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。

4 学校全体の授業改善の視点

- ・ICT機器を活用し、児童の主体的に学習に取り組む態度を養う授業を展開する。
- ・教科担任制による専門性の高い授業を行い、「個別最適な学び」「協働的な学び」を充実させる。
- ・問題解決型の学習を取り入れ、自ら考え主体的に取り組む機会を増やす。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価	
低学年	・学習意欲を高めるためにICT機器を活用し、動画や写真、図などを提示する。 ・個に応じたワークシートを作成し、児童が選んで学習できるようにする。				・児童の学習意欲を向上させるために、ICT機器を活用した教材提示を行い、共有や習熟の場面でもタブレット端末の機能を活用する。				・季節探しで見つけたものを写真や動画に撮り、友達と共有をする。 ・生き物や植物の成長記録として写真や動画で残して友達と情報を共有する。		・録画・録音機能を使って演奏の振り返り、比較したり、聴取したりする。		・カメラやインターネット機能を活用し、表したものを撮影したり調べたりする。				・映像やデモンストレーションなどによる手本を示し、達成のための練習方法を考えさせる。また、意見を伝え合うことで、上達のための様々な方法があること学ぶ。					・挿絵をPDF化し、映像として映す。	
中学年	・朝学習や補習時間に、タブレット端末等ICTの活用を中心に、様々な学習を通して、個に応じた基礎的基本的な知識の底上げを図る。		・本時の課題を明らかにして、その解決に向けた調べ学習を行い、授業の終末で、課題に対する考えを自分の言葉で書かせる。 ・ノートより、単元の形成的評価を行う。		・児童の学習意欲を向上させるために、タブレット端末を用いたゲーム活動等を行い、習熟の場面でもオンラインコンテンツを活用する。		・タブレット端末で動画や写真を使い、学習意欲を高めたり、理解を深めたりする。 ・習熟度別に振り返りを行い、知識の定着を図る。				・スカイメニューやTeamsを活用し、資料を配布したり、児童の考えを集約して学級全体に共有したりする。		・Teamsの投稿機能を活用して情報交換する。				・映像などによる手本を示し、達成のための練習方法を自ら選択する。また、話し合いによる意見交換の場をつくり、上達のための様々な方法があることを学ばせる。				・挿絵をPDF化し、映像として流す。 ・今日の振り返りをまなびポケットやTeamsでする。 ・スカイメニュークラウドでポジショニングをマークする。		
高学年	・ICT機器を活用し、考えを表現したり、共有したりする時間を設定するとともに、個に応じた手立てを丁寧にとること、学力の底上げを図る。		・学習問題や学習課題に対して、その解決のための見直しをもって学習に取り組む習慣を身に付ける。 ・まなびポケットの単元ドリル等を活用して、知識の定着を図る。		・児童の学習意欲を向上させるために、タブレット端末を用いたゲーム活動等を行い、問題・資料の提示や習熟の場面でもタブレット端末の機能を活用する。		・タブレット端末を使って、デジタル教科書やインターネットの資料を活用し、導入時に意欲的に取り組める工夫をする。				・スカイメニューやTeamsを活用し、資料を配布したり、児童の考えを集約して学級全体に共有したりする。		・画像編集ソフトを活用してデジタル作品をつくる。		・調べ学習や動画・資料配布など学習内容に応じて効果的に使い分けて活用する。		・毎時間のテーマや達成課題を明示し、その課題に対して個々の練習方法や意識すべきポイントを考えさせる。考えたり話し合ったりする時間を設け、思考しながら運動に取り組む機会を大切にす			・教科書のデジタル教材を活用し、児童が英語を聞いたり話したりする活動を多く取り入れる。		・挿絵をスライドショーで見られるようにする。 ・Teams等を使って多面的に考えられるようにする。 ・スカイメニュークラウドでポジショニングをマークする。	